

### 1 経営戦略の見直しにあたって

本市下水道事業では、平成28年度に継続可能な下水道事業の運営を目指すとともに、今後の下水道事業を効率的かつ健全に運営するための経営基盤の強化と財政マネジメントの中長期計画として、「唐津市下水道事業経営戦略」を策定し事業を進めてきました。

令和3年度で策定から5年が経過したこと、また、下水道事業が令和2年度に特別会計から公営企業会計に移行したことから、本経営戦略の見直しを行うこととしました。

### 2 経営戦略の位置づけ

唐津市下水道事業経営戦略は、総務省から示されている「経営戦略策定・改定ガイドライン」の内容に沿って改定しました。この経営戦略を本市下水道事業の経営に係る最も重要な計画として位置づけ、毎年度の予算や各種計画などは本経営戦略の方針に沿って作成することとします。

### 3 経営戦略の構成、記載内容

構成	記載ページ
第1章 経営戦略策定の概要	1
第2章 下水道事業の概要	3～8
第3章 下水道事業の現状	9～25
第4章 下水道需要・整備の見通し	26～27
第5章 基本方針と数値目標	28
第6章 効率化・経営健全化の取組み	29～32
第7章 投資・財政計画	33～43
第8章 経営戦略の事後検証	44

## 4 投資計画

経営戦略の計画期間である令和 4 年度から令和 13 年度までの事業費として、約 203 億円を見込んでいます。

### ●今後 10 年間の主要事業（R4～R13）

区分	事業名	事業内容等
施設 関連	公共下水道事業	唐津市浄水センター消化槽、中央監視設備等改築、中継ポンプ場増設・改築
	特定環境保全公共下水道事業	北波多浄水センター改築、中継ポンプ場増設・改築
	農業集落排水事業	後川内、相賀、七山中央、志気、竹木場、湊、天川、行合野浄水センター改築
	漁業集落排水事業	向島、馬渡島、小川島、高島、菖津、小友、駄竹浄水センター改築、高串地区新規整備
	戸別浄化槽整備事業	浄化槽新規整備
管路 関連	各事業における未普及対策	庵木地区ほか管路新設工事、マンホールポンプ新設工事
	各事業における老朽管更新	管更生工事、マンホール蓋取替工事、マンホールポンプ更新工事
浸水 対策	浸水対策事業	雨水幹線整備

### ●今後 10 年間の投資計画（R4～R13・事業費平準化後）

（単位：百万円（税込））

項目	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	合計
管路建設費	691	580	1,023	1,013	580	445	341	341	341	194	5,549
管路改良費	66	66	66	66	66	66	66	66	66	66	660
ポンプ場費	18	68	318	218	18	18	18	18	18	18	730
処理場費	1,089	444	737	404	1,465	1,399	1,327	1,366	1,354	1,351	10,936
浸水対策費	63	46	36	60	264	264	264	264	264	264	1,789
固定資産購入費	108	98	92	85	85	85	82	0	0	0	635
合計	2,035	1,302	2,272	1,846	2,478	2,277	2,098	2,055	2,043	1,893	20,299

## 5 数値目標

施設整備を計画的に推進しつつ、持続可能な下水道事業経営を目指すために、次の数値目標を設定します。

### 1 企業債残高の縮減

令和13年度までに企業債残高を308億円に減らします。

### 2 一般会計繰入金の縮減

毎年度の一般会計からの繰入金を前年度比マイナス1.0%に抑えます。

### 3 下水道普及率・水洗化率の向上

令和13年度までに、下水道普及率を96.7%、水洗化率を96.4%にします。

(令和2年度末時点 下水道普及率：91.8%、水洗化率：93.7%)

## 6 財源試算

### (1) 投資・財政シミュレーション

(単位：千円)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
下水道事業収益	4,699,639	4,550,281	4,581,050	4,549,234	4,616,289	4,729,890	4,764,818	4,800,618	4,943,565	5,007,666
下水道事業費用	4,726,553	4,588,493	4,650,747	4,634,782	4,745,276	4,903,399	4,974,911	5,033,792	5,182,295	5,259,522
当年度純利益	▲26,914	▲38,212	▲69,697	▲85,548	▲128,987	▲173,509	▲210,093	▲233,175	▲238,730	▲251,857
資金収支	71,736	27,201	▲80,454	▲49,066	18,762	38,331	80,358	183,090	241,631	417,819

本編の36ページに記載がありますとおり、現行の下水道使用料でシミュレーションを行った結果、令和6年度と令和7年度で単年度での資金不足が発生することがわかりました。また、全ての年度において当年度純利益がマイナスとなっています。

これでは、現在の使用料等で企業債償還金等の資本的収支の不足分を補填できず、一般会計からの繰入金への依存度が高くなってしまいます。

## (2) 財源確保の方法

不足する財源を確保するためには、できるだけ費用を抑えて、さらには料金の見直しなどを行い、収入を確保する必要があります。

下水道事業は本来、下水道使用料収入で賄うべきであることが前提であることから、平成28年度に策定した「唐津市下水道事業経営戦略」にも記載のとおり、使用料の見直しを定期的に行い、財源の確保に努めていく必要があります。

## 7 投資・財政計画

投資計画で掲げた事業の財源を確保するためには、将来的に料金の見直しを行う必要があります。令和6年度及びその5年後の令和11年度に料金を見直しを行うと仮定した場合の投資・財政計画については、経営戦略の33～43ページに掲載しています。

### ○料金改定シミュレーションの結果

(令和6年度と令和11年度にそれぞれ10%の改定を行った場合)

(単位：千円)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
下水道事業収益	4,699,639	4,550,281	4,604,874	4,567,101	4,633,897	4,747,232	4,781,902	4,842,236	5,009,045	5,199,854
下水道事業費用	4,726,553	4,588,493	4,650,747	4,634,782	4,745,276	4,903,399	4,974,911	5,033,792	5,182,295	5,259,522
当年度純利益	▲ 26,914	▲ 38,212	▲ 45,873	▲ 67,681	▲ 111,379	▲ 156,167	▲ 193,009	▲ 191,556	▲ 173,250	▲ 59,668
資金収支	71,736	27,201	93,811	121,539	188,482	207,005	248,015	516,328	572,489	746,365